

市民のひろば

身近な話題などお知らせください！
情報をお待ちしています



五月晴れの下でさわやかな汗

市内各地で公民館運動会

4月と5月は市内15の公民館で運動会が催され、競技を通じて地域の親睦を深めました。

5月8日、ニッ河小学校の運動場で開催されたニッ河校区公民館の運動会では、ラケットリレーやパン食い競争、2人3脚、年代別リレーなど23種類の競技が行われました。地域対抗で行われた2人3脚競技では、息が合わずに追い越されそうになるペアに、地元のテントからひととき大きな声援が上がっていました。

▲2人の息がぴったり合うと走りもスムーズ

手話通訳を育てたい

市手話奉仕員養成講座開講式

市は聴覚に不自由のある人の通訳やコミュニケーションの手助けをする人を育てようと、5月12日、サンブリッジで手話奉仕員養成講座を開講しました。受講生は昼と夜の部あわせて26人で、福祉や介護などの現場で働く人や一般の市民が参加。講師である市聴覚障害者福祉会のメンバーから、聴覚に不自由のある人が生活の中で感じることや手助けになる器具などの説明、手話で行うあいさつなどを熱心に学んでいました。



講師が教える手話を学ぶ受講生



▲おりに入れられ周囲を威嚇するワニガメ

ペットは最後まで責任をもって

市内でワニガメが捕獲されました

5月9日、田脇の天満神社近くの水路でワニガメが発見され、通報を受けた市職員が捕獲しました。ワニガメはアメリカ原産で大型の淡水ガメ。捕獲されたカメはオスで体長60cm、体重19kg。あごの力が強く大人の指も噛み切り、飼育には県知事の許可が必要です。このカメを保護したワニガメ生態研究所（岡山県）では、10年以上前に捨てられたか逃げ出したものとみえています。場合によっては人に危害を加えていたかもしれず、元飼い主には責任ある管理を訴えたいですね。

柳川をPRしていきたいです

モデルの堤なぎささんが市長を表敬訪問

モデルとして東京で活躍していた堤なぎささん（中島）が4月から活動拠点を福岡に移し、5月13日、金子市長を表敬訪問しました。堤さんは中学生からモデルを始め4年前に上京。ポスターや自動車のカタログ、化粧品メーカーのモデルや自動車保険のテレビCMに出演しました。「地方出身でも目標を立てて頑張れば実現できるのが分かった。子どもたちに夢を与えられれば」と堤さん。現在は地元放送局のバラエティ番組にも出演中。柳川のPRをしていきたいと話しています。



▲市長に大好きな福岡で仕事がしたかったと話す堤さん

お目当ての雑誌をゲット

市立図書館雑誌リサイクルデー

市立図書館は、5月8日の昭代分館を皮切りに雑誌リサイクルデーを開催しています。2年間の保存年限が過ぎた雑誌を無料で提供するもので、昭代分館では歴史や園芸、児童向けなど32タイトル、約460冊もの雑誌が所狭しと並べられました。午前10時の入場までに約20人もの列ができる盛況ぶり、「初めて来たけど、思っていたより雑誌が多くてびっくり。来年もまた来たい」という来場者も。6月5日は本館、6月12日は両開分館で実施します。



昭代分館でお目当ての雑誌を探す来場者

水も人もキラリ 川柳

今月の入選作品・課題「帰る」

花万葉待たず浄土へ師は帰る

古賀麗子（吉原）

郷土柳川が生んだ北原白秋、長谷健、檀一雄の体温を昨日のできごとのように話してくれる先生がいた。私はその都度身を乗り出して聞いた。先生の名はこの市報やながわの俳句選者でもあった古賀雁来紅102歳。花はまだ硬い蕾の頃川を渡られた。一面の花の浄土を思う。

- 帰省する内緒話を風呂敷に 江口和子（今古賀）
- 縁日や風船空へ逃げ帰る 池田美幸（佃町）
- どうして月を帰ったかや姫 大橋ミヨ子（六合）
- しっかりと母を抱きしめたら帰る 横山 保（徳益）
- 夕陽背にスキップふんで帰る道 野片義博（隅町）
- もう帰ろう隠れんぼうで日も暮れた 砥上征夫（鷹ノ尾）
- 帰り来て老母得意の高菜飯 持永マサ子（新外町）
- 帰り来る子等ら待つ日の水まつり 宮崎 武（弥四郎町）
- 山里に帰る坂道コンと泣く 徳永エツ子（徳益）
- 波分けて帰る漁船に待つ灯り 石川百合子（材木町）
- 恋多きおとなりの猫朝帰り 野村美智子（旭町）
- 鳴ります寝ている母に置き手紙 中原由美子（百町）
- 卵の花の咲く家が待つている 梅崎三和子（田脇）
- 仏の座生まれ帰るいつの日か 吉開綾子（筑紫町）
- 帰れない被災者の苦悩胸を突く 三池多美（西魚屋町）
- 五年ぶり髯の中から父帰る 荒巻ミエノ（南浜武）
- 太陽が空へと帰る季節かな 江口美幸（今古賀）
- 帰宅時にニヤンの一声癒される 野口美恵子（豊原）
- 野口美恵子（上宮永町）

川柳を募集しています。選句者は梅崎流青さん。7月の課題は「煮る」です。入選作品は7月1日号に掲載します。

●応募方法 川柳と明記し、自作、未発表の作品（※1人3句以内）に、住所、氏名、電話番号を書いて、ハガキかファクスまたは直接、柳川庁舎企画課広報聴係（☎77・8425、FAX74・5520）へ、6月15日（※必着）までにお送りください。

人生の節目ふしめて煮る小豆

流青